



滋賀県道路整備アクションプログラムの見直しに向けた地域ワーキングを開催



このたび滋賀県では、平成30年3月に公表した『滋賀県道路整備アクションプログラム2018』の見直しを実施することになりました。

大津土木事務所では、管内における地域課題を抽出し、その課題を踏まえた今後の道路整備について意見を聴くことを目的に、有識者、公募委員、道路利用者等からなる「地域ワーキング」を開催しました。

道路整備アクションプログラムとは

「道路整備アクションプログラム」とは、「どこに、どんな道路が、いつまでに必要か」を具体的に示した道路の整備計画のことで、県内8地域別に策定しています。

このプログラムは、社会情勢の変化や政策課題に係る変更が生じた場合に適宜見直し、最長でも5年で見直すこととしており、平成15年度の当初策定から5年サイクルでこれまで3回の見直しを実施しました。

今回は道路整備マスタープランの3次改定を受け、4回目の見直しを実施します。『アクションプログラム2023』では、令和5年度～令和14年度までの10年間における道路整備計画を示します。

■平成30～令和3年度の間に完了した事業の一例

国道422号（大石東バイパス）R1.5供用



旧道の状況



◆◆第1回地域ワーキング開催概要◆◆

【日時】 令和4年7月27日（水）
14:00～16:00

【場所】 滋賀県危機管理センター 1階 大会議室

▶ 地域ワーキングの目的

大津土木事務所管内の地域課題を抽出し、その課題を踏まえた今後の道路整備について、色々な立場の方から意見を聴くことを目的とする。

▶ 地域ワーキングの検討内容

- ①地域の道路・交通の現状、問題点、課題の整理
- ②客観的評価マニュアルにおける地域の重点項目の選定
- ③地域ワーキングにおける「地域の声」のとりまとめ
- ④アクションプログラム2023への掲載内容

見直しの手順

- ①地域ワーキングの意見、県民アンケート、市町意見等を踏まえて「地域の声」「地域重点項目」を設定する。
- ②最新データに基づき、客観的評価マニュアル※により事業を評価する。
- ③選択と集中を図り、早期に事業効果を発現できる事業を抽出する。

アクションプログラム策定スケジュール

第1回
ワーキング

5年間を振り返り、地域の道路、交通の問題点や課題等についてご意見をいただきました。

今回

第2回
ワーキング

第1回ワーキングで頂いた意見に基づき、「地域の声(案)」「地域の重点項目(案)」を作成、提示し、意見をいただきます。

第3回
ワーキング

「地域の声」「地域の重点項目」「定量的指標」等の報告、個別路線の代表候補箇所を提示し、意見をいただきます。

第4回
ワーキング

アクションプログラム2023(案)を提示し内容について意見をいただきます。

アクションプログラム2023策定
(令和5年3月予定)

※客観的評価マニュアルについて

「客観的評価マニュアル」とは、アクションプログラムにおける事業の優先度を誰が見ても納得できる評価基準、誰がやっても同じ評価結果とするための客観的な評価方法を記載したものです。

これにより、現道拡幅やバイパス整備、交通結節点整備などの「拠点間ネットワーク整備事業」、歩道や自転車道整備などの「拠点内道路空間整備事業」について、A・B・Cの3段階でランク分けを行い、事業の優先度を判断するものです。

ワーキングでいただいた主なご意見

▶アクションプログラム2018等の道路整備による地域の変化

- ・新しい道ができて信号や渋滞を避けて生活道路に進入してくる車がみられる。
- ・きれいに道路が整備されると交通量が多くなり、車速も早くなる。安全対策も考えていく必要がある。
- ・まちづくりをきちんと考えて、将来予測の基に道路整備しないと渋滞はいつまでも解消されない。
- ・ピワイチが推進されていて自転車専用レーン引かれているが、車を運転していて怖く感じることもある。

▶大津地域における道路の問題・課題

- ・瀬田～逢坂にかけての国道1号が生活道路となっており、慢性的な渋滞が発生している。国道1号バイパスが必要である。
- ・道路整備が進んで交通量が増えていることで、消防車・救急車が現場到着するのに年々時間がかかっている。新しい道を整備することには、市民の命がかかっていると考えてもらいたい。
- ・通り抜けの車が通学路に入ってくるのを何とかしてほしいという意見も多い。

▶大津地域の道路整備について

- ・緊急時や災害時、幹線道路が通行止めであれば、幹線道路以外の道路を迂回路として使うことになるので、幹線道路と併せて、並行する道路の整備を進めてもらいたい。
- ・中部・南部は人口増加に対応する対策が求められる。北部は高齢者が増えてきているので、歩道の路面整備や側溝への対策を考えていかないといけない。南北東西でとるべき施策が違うと思う。
- ・できるだけ公共交通を利用してもらう、車を使わないという視点での施策も、道路整備と併せて実施していく必要がある。

▶その他

- ・抜け道利用を減らすための対策として、カーナビ案内など技術面から対応できないか。
- ・御堂筋のような一方通行化をすることで安全性も担保でき、渋滞も解消されるのではないかな。新たな道路整備には多額の予算が必要であることから、道路利用における社会実験のような取組をしてはどうか。
- ・県外から観光などで遊びに来ている方と地域で生活している方との共存を考えると、分かりやすい標識等が求められる。
- ・公共交通機関をしっかり担保して、車を使わない大津市、滋賀県を作っていけると良いと思う。
- ・駅ロータリーで、バスの運行に一般車両が影響を及ぼしている場合がある。一般車両の送迎について、ルールを明確にすべきだと思う。



◆◆◆ 地域ワーキング委員(敬称略、五十音順) ◆◆◆

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 青山 知子 [大津交通安全協会 女性部長] | 高岡 裕子 [大津警察署交通第一課 課長](欠席) |
| 大森 睦浩 [大津北警察署交通課 課長] | (原田 毅 [交通第一課規制係係長](代理出席)) |
| 小川 圭一 [立命館大学理工学部 教授](座長)(欠席) | 竹平 陽 [公募委員] |
| 鬼塚 泰二 [大津市建設部道路建設課 課長] | 西 耕一郎 [公募委員](欠席) |
| 後藤 佳子 [大津市地域女性団体連合会 副会長] | 野村 義明 [社団法人滋賀県バス協会 専務理事] |
| 佐藤 祐子 [公益社団法人びわこビジターズ
ビューロー 副会長] | 丸山 忠司 [社会福祉法人大津市社会福祉協議会
事務局次長] |
| 須山 進 [大津商工会議所 観光運輸部会] | 横田久美子 [大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹] |

滋賀県道路整備アクションプログラム 地域別アクションプログラム 大津地域ワーキング
～大津地域ワーキングニュース～ 2022年10月発行

【編集・発行】滋賀県大津土木事務所道路計画課

〒520-0807 滋賀県大津市松本1丁目2-1 TEL:077-524-2820 FAX:077-525-9352

E-mail: ha30100@pref.shiga.lg.jp URL: <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/douro/326756.html>

議事録URL
はこちら

